

平昌五輪で韓国に半島外交の主導権

拓殖大学海外事情研究教授

名越 健郎



Kenro Nagoshi

韓国主催の平昌(ピョンチャン)冬季五輪は、「平壤(ピョンヤン)五輪」といわれるほど北朝鮮色の強いイベントとなった。核・ミサイル実験を推進し、強硬姿勢を貫いた北朝鮮の金正恩労働党委員長は、実妹で側近の金与正氏を五輪に派遣。南北首脳会談を提案し、一転して和平攻勢に出た。日米両国は北朝鮮の微笑外交や韓国の対北融和姿勢を冷ややかに見ており、日米韓の連携が破綻しつつある。

北朝鮮に焦りも

韓国の文在寅大統領と金与正氏、金永南最高人民会議常任委員長ら北朝鮮高級代表団の会談は2月10日、ソウルの大統領官邸で行われ、与正氏は兄・正恩氏の親書を大統領に手渡した。金委員長は与正氏を通じ、文大統領の訪朝を要請。与正氏は「大統領が統一の新たな扉を開く主役となり、後世に受け継がれる軌跡を残してほしい」と文大統領を持ち上げた。文大統領は、「条件を整えて実現させよう」と述べ、即答は避けながら、訪朝に意欲を示した。大統領は「米朝間の早期対話はどうしても必要だ」と米朝対話呼び掛けた。しかし、核・ミサイル問題を取り上げることにはなかった。

北朝鮮代表団は帰国後直ちに、金委員長に会談結果を報告し

リベラル政権の真骨頂

一方で、朝鮮半島情勢で主導権を握ろうとする文大統領の思惑も顕著だった。北朝鮮の五輪参加が実現したのは、韓国政府の熱心な働き掛けがあったからだ。文大統領は昨年夏ごろから、北朝鮮に選手団や応援団の派遣を呼び掛け、水面下の接触も行われた。与正氏ら大型代表団の派遣は北朝鮮のイニシアチブであり、それだけ北朝鮮も南北融和を切望していたようだ。

文大統領は金大中、盧武鉉と続いた左派リベラル政権の流れを汲み、自身も盧大統領の側近を務めていた。2人の大統領は在任中に北朝鮮を訪問し、金正日総書記と南北首脳会談を行っており、リベラル政権にとっては南北融和への使命感がある。文大統領は「確信犯」として今後も南北融和外交を進めるだろう。

今後、朝鮮半島情勢では韓国が主導権を握る可能性がある。これまで、半島情勢は米国や北朝鮮、または中国が主導権を握り、韓国は振り回されてきた。トランプ政権は北朝鮮問題で「あらゆる選択肢」に言及し、武力攻撃も排除していないが、韓国は米国の武力行使を阻止するだろう。中国の北朝鮮への影響力にも限界がある。北朝鮮は経済危機や国際制裁で疲弊してしまっており、韓国の影響力が相対的に高まっている。

ただし、韓国の保守勢力は北朝鮮への関与政策に反発を強めており、南北首脳会談は国論を二分しよう。文大統領の支持率も徐々に低下してきた。

日米は韓国に不信感

日米韓の連携による北朝鮮への圧力強化を狙う日米両国は、

た。今後、南北首脳会談実現に向けた準備を本格化させるとみられる。北朝鮮は南北首脳会談をカードにして、融和姿勢の文政権を取り込み、米国が主導する国際社会の包囲網を突破したい構えだ。

北朝鮮にとって、平昌五輪への参加は大成だったろう。代表団は2月9日に専用機で韓国入りし、五輪開会式に出席。南大選手団の合同入場に拍手を送り、融和ムードを演出した。韓国主催のレセプションにも出席した。北朝鮮はアイスホッケー、フィギュアスケートなどの選手団を派遣。アイスホッケーでは南北合同チームが編成された。「美女応援団」や芸術団「三池淵管弦楽団」も派遣し、南北友好ムードを振りまいた。

それまで核・ミサイル発射を続け、対話姿勢を一切見せなかった北朝鮮が一転して南北融和に舵を切ったのは、国際社会の制裁圧力で厳しい状況に追い込まれていることも背景にあらう。韓国の情報機関、国家情報院は、国連制裁下で北朝鮮からの石炭や水産物などの輸出が中断し、対中国の貿易赤字が2017年末に過去最大規模の19億6000万ドル(約2200億円)に上ったと明かした。また、トランプ米政権が先制攻撃をほめかす発言をしていることも、北朝鮮にとっては脅威だ。米韓同盟の離間を図る背景には、北朝鮮の焦りも垣間見える。

韓国の変節で難しい対応を迫られそうだ。日韓首脳会談で、安倍晋三首相は五輪後に米韓合同演習を予定通り実施するよう求め、韓国側は「自国の主権だ」とはねつけた。安倍首相が「北の『ほほ笑み外交』に目を奪われてはならない。対話のための対話は意味がない」と強調したのに対し、文大統領は「南北対話が国際協調を乱すというのは杞憂だ」と述べ、日本も北朝鮮との対話に臨むよう求めた。平昌五輪に参列した外国首脳は安倍首相だけで、韓国側は歓迎したものの、首脳会談は平行線が目立った。

安倍首相はレセプションの席で、北朝鮮の国家元首に当たる金永南委員長と短時間会談し、日本人拉致問題や核・ミサイル問題で日本の主張を伝えた。北朝鮮側の反応は公表されていない。

米代表団の団長として開会式に出席したペンス副大統領も安倍首相と連携して北朝鮮との対話を韓国に警告した。副大統領は、北朝鮮が核・ミサイル計画を放棄するまで経済・外交面で「最大の圧力」を維持すると繰り返し、南北融和ムードをけん制。金与正氏ら北朝鮮代表団を終始「無視」して、強硬姿勢を緩めない決意を示した。

米韓両国は五輪中に予定されていた合同軍事演習を延期したが、米側は4月に再開したい意向だ。北朝鮮側は演習中止を強く要求している。国連総会が採択した五輪停戦決議が3月25日で失効することから、北朝鮮の対応次第で半島情勢が再び緊迫する可能性もある。

ただ、当事者の韓国が南北融和に走りつつあり、日米両国は、文政権が北朝鮮のペースに乗せられ、南北首脳会談実現へ突っ走することを懸念している。

(3月1日)

MOVEMENT